

2018 年度版



京都市の 地球温暖化対策



持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言

(2017 年 12 月京都議定書誕生 20 周年記念地球環境京都会議 2017 で発信)

<2050 年の世界の都市のあるべき姿（抜粋）>

- ・ 自然との共生が実現している。
- ・ 市民の価値観やライフスタイルの転換が進んでいる。
- ・ 持続可能社会を構築する「担い手」が育成されている。
- ・ 技術革新と同時に、気候変動による影響への適応策が十分に進んでいる。
- ・ 循環型社会が構築されている。
- ・ 都市によるエネルギー自治が実現している。
- ・ 環境負荷の低減と利便性の向上が両立している。
- ・ 持続可能な社会の実現に向けた取組が社会問題の平和的解決に貢献している。

都市は世界人口の約半数が暮らしていて、世界の CO₂ 排出量の 4 分の 3 を占めているんだよ。

地球温暖化対策を進めるには京都市のような都市の役割はとても重要なんだよ！



京都市の地球温暖化対策

京都市では、全国で初めて地球温暖化対策に特化した条例を制定し、国よりも高い温室効果ガスの削減目標を掲げ、地球温暖化対策に取り組んでいます。

京都市の削減目標

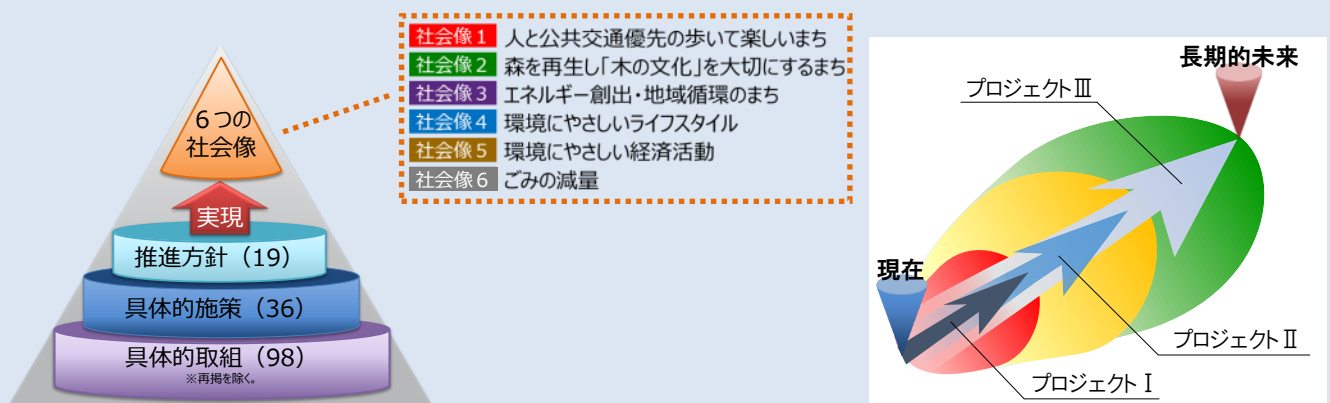
市域からの温室効果ガス排出量を、1990 年度に比べ、

2020 年度までに 25%削減

2030 年度までに 40%削減

長期的には 80%以上削減

低炭素社会の実現に向けて、京都市では「京都市地球温暖化対策計画＜2011～2020＞」において、京都の特性を考慮した6つの観点から2030年度の低炭素社会像を提示し、その実現に向けて地球温暖化対策に取り組むとともに、長期的未来を見据えた戦略「プロジェクト“0”への道」を掲げています。



「COP24」で京都市の地球温暖化対策を世界に発信！

本市は、2018年12月2日～15日にポーランド・カトヴィツェで開催された国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）に参加し、2017年12月に発表した、今世紀後半の「温室効果ガスの実質排出ゼロ」の実現に向けて、温室効果ガスの大排出源である都市の責務を示した『**持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言**』など本市の地球温暖化対策の取組を発信するとともに IPCC 総会の京都市開催に向けた PR 等を行いました。

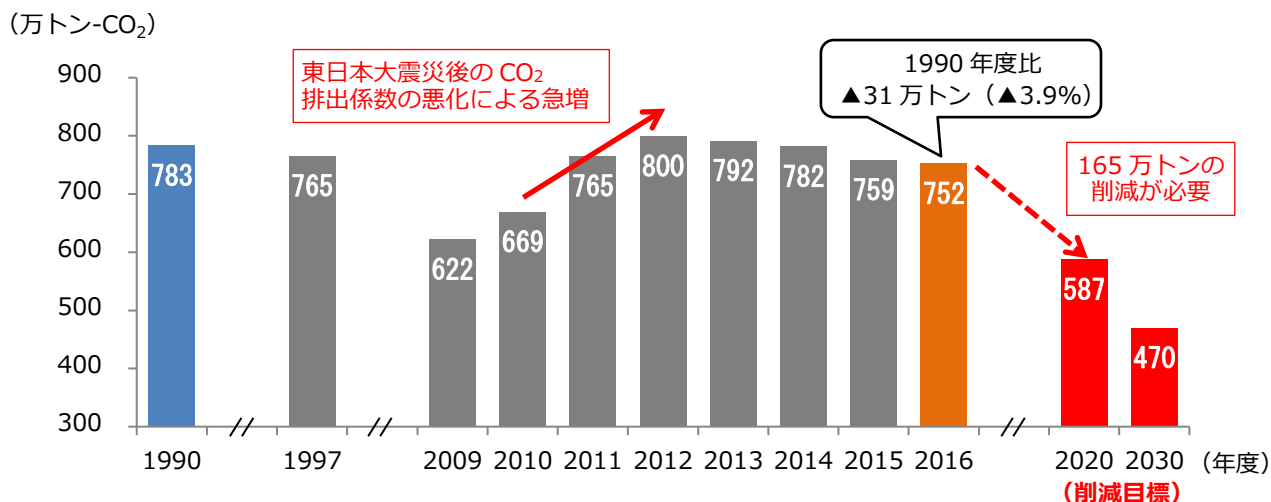


「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」の推進における連携に関する協定書締結セレモニー（2018年6月）

これまでの地球温暖化対策による成果

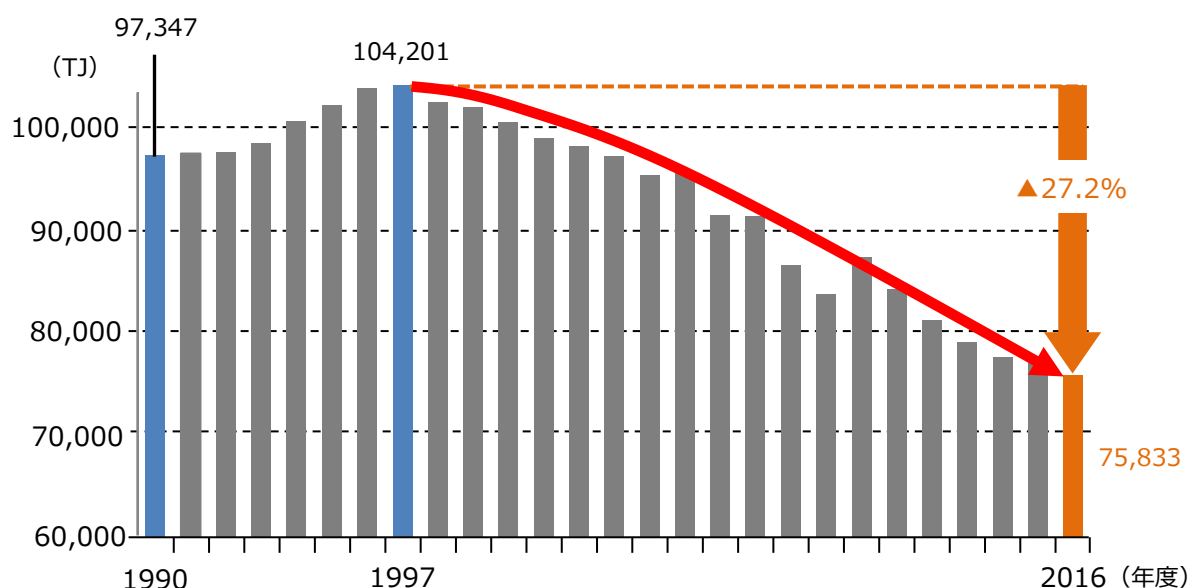
①温室効果ガス排出量の削減

2016年度の温室効果ガス排出量は **752万トン**と、前年度から **6万トン減少**しました。基準年である1990年度からは **31万トン、3.9%の減少**であり、2020年度における削減目標の達成には、より一層の対策が必要です。



②省エネルギーの推進

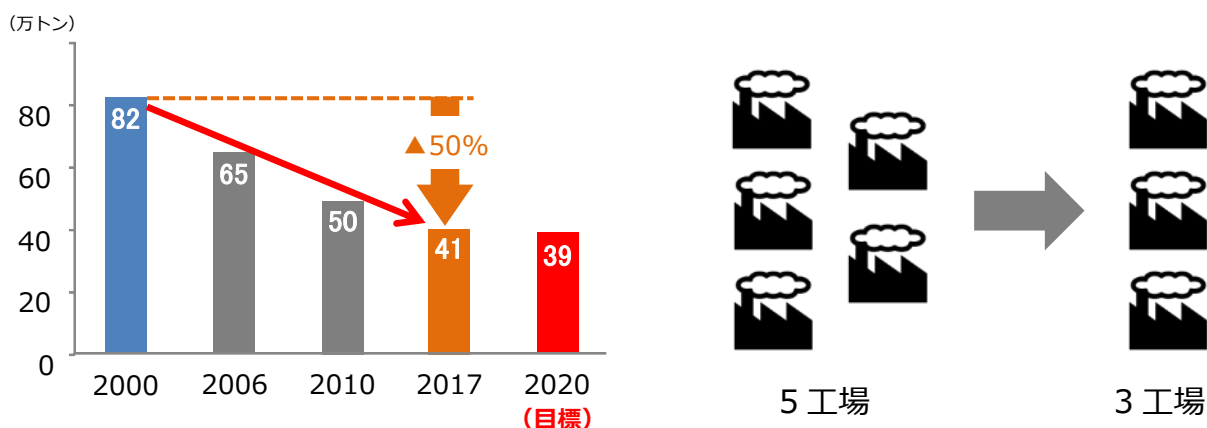
2016年度のエネルギー消費量は75,833TJであり、市民・事業者の皆様の省エネや節電の取組により、**ピーク時の1997年度に比べると27.2%の減少**（1990年度から22.1%減）と、1990年度以降最も少なくなりました。



③ごみの減量

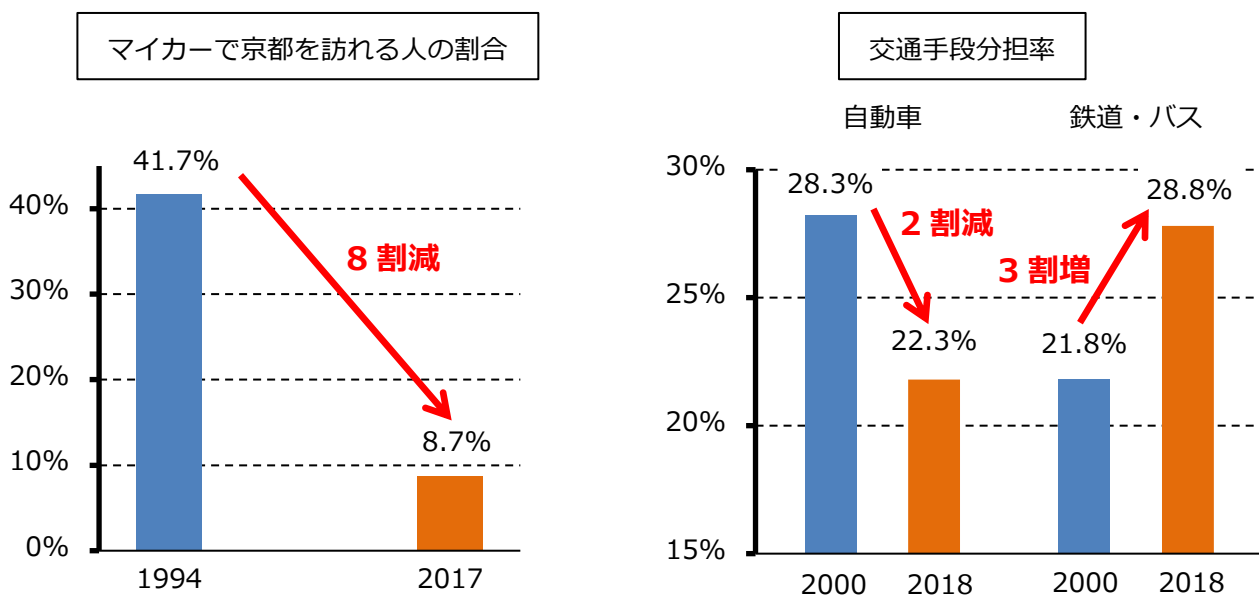
2017年度における京都市のごみ量は、市民、事業者の皆様の御協力・御尽力により、約41万トンと、ピーク時である2000年から50%の減量となりました。また、京都市における市民一人が1日あたりに排出する家庭ごみ量は402g（2017年度実績）と他の政令指定都市平均である557g（2016年度実績）の約3/4となっています。

さらに、ごみ処理コストについても大幅に削減（年間 154 億円／年の削減）することができ、5工場あったクリーンセンターを3工場にまで減らすことができました。



④公共交通の利用促進

2017年度におけるマイカーで京都を訪れる人の割合は8.7%と、1994年に比べてその割合は8割減少しました。また、2018年度における交通手段分担率については、自動車の占める割合は22.3%と2000年度と比べて2割減少し、一方で鉄道やバスといった公共交通の占める割合は28.8%と2000年度と比べて3割増加しました。



社会像1 人と公共交通優先の歩いて楽しいまち



グリーンスローモビリティ 体験乗車イベントの開催

2018年9月、京都のまちの特性に応じた新たな移動サービスの検討の一環として、国内外から多くの観光客が訪れる一方で、少子高齢化が進行する大原地域において、グリーンスローモビリティの体験乗車イベントを実施しました。

新たな移動サービスの検討においては、将来における自動運転技術の活用など様々な可能性を想定しながら、取組を進めていきます。

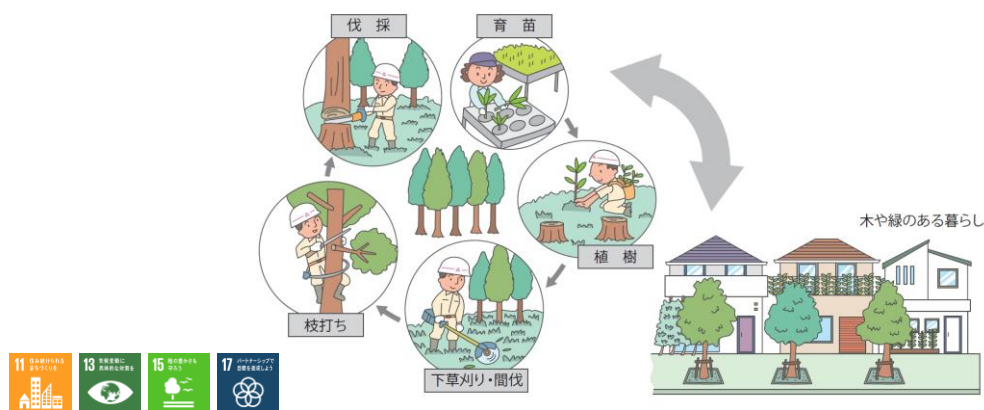
グリーンスローモビリティ

「電動で、時速 20km 未満で公道を走ることが可能な 4 人乗り以上の低炭素型モビリティ」とされており、地域の様々な交通問題の解決に資する低炭素型モビリティとして国土交通省や環境省が導入を推進しています。



ヤマハモーターパワープロダクツ(株)製の電動小型低速車

社会像2 森を再生し「木の文化」を大切にするまち



「京のみどりの駐車場」パートナー制度の創設

屋外駐車場の緑化を進めるため、コインパーキングの緑化に積極的に取り組む事業者の方を『「京のみどりの駐車場」パートナー』として認定する制度を創設し、2018年4月にパートナーである企業等の皆様と協定を締結しました。

パートナーの皆様には、毎年度 100m² 以上の駐車場緑化を行うことを宣言していただきました。



駐車場緑化の事例

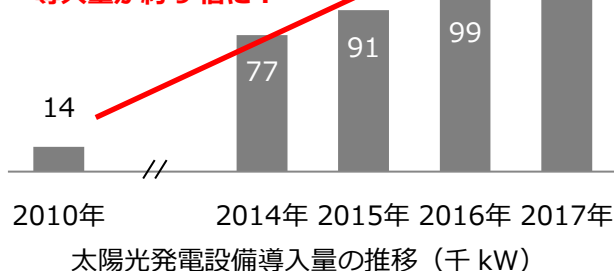
社会像 3 エネルギー創出・地域循環のまち



再生可能エネルギー設備の導入支援

再生可能エネルギーの普及を図るため、太陽光発電システムや蓄電システムなどの設置助成を行っています。

**7年間で太陽光発電システムの
導入量が約9倍に！**



「すまいの創エネ・省エネ わくわく広場」の開催

地元事業者、メーカー等との連携で、「創エネ」及び「省エネ」について、子どもから大人まで楽しみながら学べるイベント「すまいの創エネ・省エネわくわく広場」を開催(全6回、延べ10日間)し、合計10,637人の市民の皆様にご参加いただきました。



会場の様子

社会像 4 環境にやさしいライフスタイル



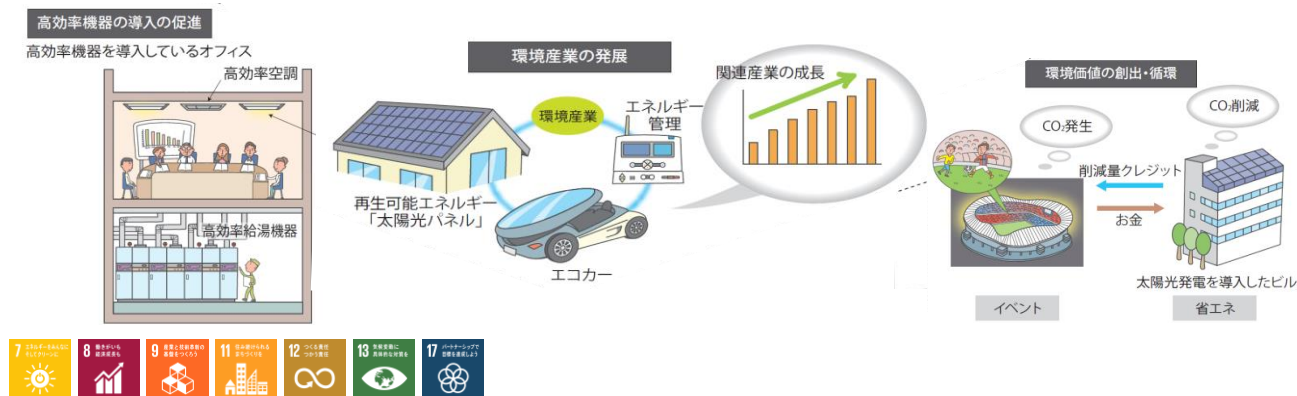
青少年科学センターへの 科学地球儀（仮称）の設置

2019年3月、地球環境問題に対する意識向上を図るため、京都大学との連携により、同大学が開発したシステム「ダジック・アース」を活用した「科学地球儀（仮称）」を青少年科学センターに設置しました。この「科学地球儀（仮称）」は、日本初の2方向からの投影システムを用いており、見学者が自由に操作しながら、地球環境や気候変動の仕組み等について、立体的・視覚的に学ぶことができる本市独自の展示品です。



設置された科学地球儀（仮称）

社会像 5 環境にやさしい経済活動



省エネルギー相談地域プラットフォーム事業の実施

2018年6月に、一般社団法人省エネプラットフォーム協会と連携を図り、中小企業等の要請に応じ、エネルギー管理の専門家を無料で継続的に派遣し、省エネ実施計画の策定、取組実施、効果検証、計画見直しにおける各段階に応じて、きめ細かな支援を行う「省エネルギー相談地域プラットフォーム事業」を開始しました。

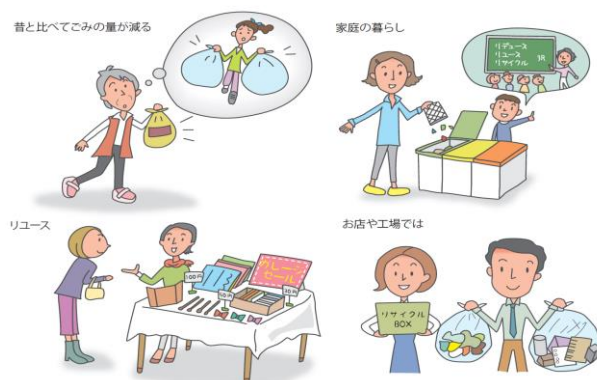


一般社団法人
省エネプラットフォーム協会

一般社団法人省エネプラットフォーム協会

エネルギー使用合理化専門員として一般財団法人省エネルギーセンターに登録された専門員を中心とした団体

社会像 6 ごみの減量



食品ロス削減全国大会 in 京都の開催

京都に息づく優れた生活文化、食文化を広く発信し、「食品ロス削減」への理解と実践の輪を広げ、全国的な機運の醸成を図るため、2018年10月30日に「食品ロス削減全国大会 in 京都」を開催しました。同大会の開催を機に、本市では、2018年から毎年10月を「食品ロス削減月間」と位置付け、食品ロス削減を一層推進していくこととしました。



家庭ごみ有料指定袋に バイオマスポリエチレンを配合

政令指定都市で初めて、全ての家庭ごみ有料指定袋にサトウキビの非可食部等から生成されるバイオマスポリエチレンを10%配合して製造し、供給を開始しました。



このごみ袋の原料に
植物由来のポリエチレン
(バイオマスポリエチレン)
を使用することで、
温室効果ガス排出量削減
に取り組んでいます。

私たちにできること

私たちの普段の生活の中には、行動を少し変えることで地球温暖化対策につながるものがたくさんあります。次に紹介する取組はほんの一例です。一人一人の行動の積み重ねが地球温暖化を防止します。皆さんも今できることから始めてみましょう！

京都市では、「**DO YOU KYOTO?**」(環境にいいことしていますか?)を合言葉に、市民・事業者の皆様と一緒に地球温暖化対策を推進しています。

「京都 (KYOTO)」という言葉は環境の面でも世界で広く知られており、この「DO YOU KYOTO?」を合言葉に、**京都から世界に向けてエコの輪を広げています。**

STEP1 宅配便を1回で受け取ろう！

インターネット通販等の普及により、宅配便は**42.5 億個 (2017 年度)**と、ここ 10 年で 3 割以上増加しており、そのうち **15%が再配達**となっています。宅配便を受け取るための便利なサービスが増えていることから、自分に合ったサービスを利用して宅配便を 1 回で受け取りましょう。

宅配便を1回で受け取るために...

- 時間帯指定の活用
- 宅配事業者のコミュニケーション・ツール等 (メール・アプリ等) の活用
- コンビニでの受取や駅などの宅配ロッカーでの受取など、自宅以外での受取サービスの活用



STEP2 省エネ性能の高い家電を選ぼう！

家電を買い替える際には、価格や性能に加えて省エネ性能も気にして選びましょう。特に、一日中動いている「**冷蔵庫**」は、省エネ性能の高い製品に買い替えるだけで消費電力が大きく減少し電気代が安くなるうえ、地球温暖化対策にもつながります。

家電製品に表示されている「**省エネラベル**」を見れば、消費電力や電気料金の目安が一目で分かります。



STEP3 住宅の断熱性を高めよう！

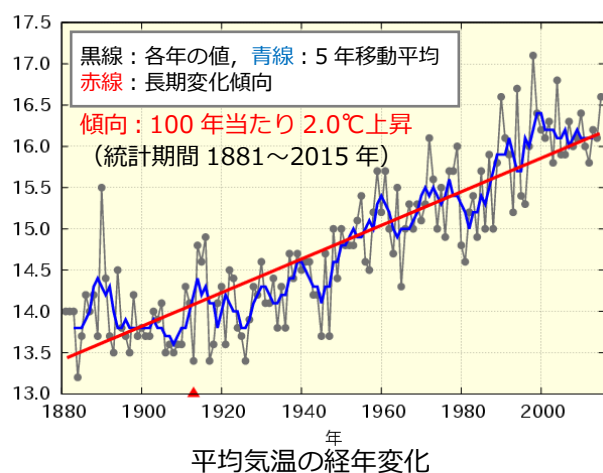
暑い夏や寒い冬を快適に過ごすためには、住宅の断熱性を高めるのが効果的です。

断熱性が高い家は魔法瓶のように保温性が高く外気温に影響されにくいので、一度快適な室温になると、その後、冷房や暖房を弱めても室温を維持できるため、省エネにつながります。



気候変動による影響への適応に関する取組

気温（℃）



（出典）大阪管区气象台からの提供資料）



2018年7月豪雨で増水した鴨川

京都市では、年平均気温が100年当たり2.0℃上昇するなどの気候変動が観測されており、2018年7月には、梅雨前線の停滞や台風7号の接近による影響で記録的な大雨となり、京都府に「大雨特別警報」が発令されるなど、気候変動による影響が既に現れています。

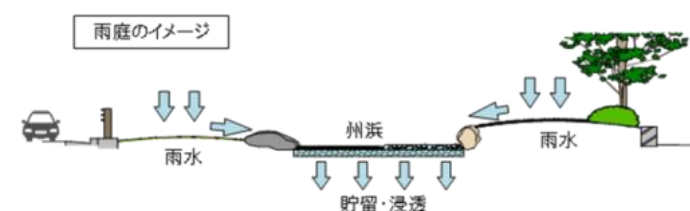
そのため、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制する施策である「緩和策」に加え、既に起こりつつある、あるいは今後起こりうる地球温暖化に伴う気候変動の影響による被害の防止、軽減等の施策である「適応策」に取り組んでいくことが必要です。

このような状況を受け、2018年6月には「気候変動適応法」が成立し、我が国における適応策の法的位置づけが明確化され、適応策を推進するための仕組みが整備されました。

四条堀川交差点に「雨庭」が完成！

2018年3月、四条堀川交差点に京都の庭園文化を生かした「雨庭」が完成しました。

「雨庭」とは、道路のアスファルトや屋根などに降った雨水を一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った植栽空間（庭）です。雨庭を設け、道路上に溢れる水を一時的に溜めることで排水溝などの氾濫を抑制することができ、地中へゆっくりと浸透させることで周囲の緑だけでなく、健全な水循環に貢献することができます。



「IPCC 総会」が京都市で開催！

2019 年 5 月 8～12 日に、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）※第 49 回総会が京都市で開催されます。

同総会の開催を契機として、市民の皆様へ「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」の理念を御理解いただくとともに、環境に対する関心や環境にやさしい取組の実践に係る意識をより一層高めていただくため、2018 年 7 月から、「IPCC 総会京都市開催記念 京都宣言発信リレー事業」を実施しました。

また、**2019 年 5 月 11 日には、国立京都国際会館（京都議定書誕生の地、IPCC 総会会場）にてシンポジウム「脱炭素社会の実現に向けて～世界の動向と京都の挑戦～」を開催します。**

※ 気候変動に関する政府間パネル（IPCC : Intergovernmental Panel on Climate Change）

人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、1988 年に世界気象機関（WMO）と国連環境計画（UNEP）により設立された組織



＜IPCC 総会京都市開催記念 京都宣言発信リレー事業＞

この冊子は、京都市の地球温暖化対策をまとめたものです。
より詳しい情報については、『京都市 年次報告書（本編）』を御覧ください。

【お問合せ先】京都市 環境政策局 地球温暖化対策室

〒604-8005 京都市中京区河原町通三条上る恵比須町 427 番地 京都朝日会館 5 階
（電話）075-222-4555 （E-mail）ge@city.kyoto.lg.jp